

がん化学療法委員会

一般外科部長(がん化学療法委員会委員長) 田中洋輔

概要

当院では、外来腫瘍化学療法診療料加算(抗悪性腫瘍薬の注射)及び外来化学療法加算(関節リウマチ、クローン病、ベーチェット病、潰瘍性大腸炎等に対する生物学的製剤の注射)の施設基準を満たすためのがん化学療法委員会を毎月開催し、新しく申請されたレジメンの審査、使用中のレジメンの改定、特定の化学療法レジメンを施行するに当たって発生した問題の解決、化学療法施行に当たって発生した病院システムの問題点の検討を行ない立案、決定している。

I. 構成メンバー

委員長 1名(一般外科医)、呼吸器内科医 1名、消化器内科医 1名、消化器外科医 1名、血液内科医 1名、泌尿器科医 1名、薬剤部薬剤師 1名、看護部看護師 2名、臨床栄養部栄養師 1名。

オブザーバーとして以下

薬剤部薬剤師 1名、看護部看護師 1名、医事課 1名、電子カルテ管理課 1名。

II. 活動内容

- 新規レジメンの検討
- レジメン改訂の検討
- がん化学療法実施運用方法の検討
- 安全対策の立案
- がん化学療法看護・院内認定看護師育成コース(講義)の開催

III. 2024年1月～12月の活動報告

- 1) 第4回がん化学療法看護・院内認定看護師育成コース(講義)開催中。

(責任者：塚本がん薬物療法専門看護師)

外来がん化学療法件数増加、入院施行のがん化学療法件数増加への対応として、がん化学療法看護の知識を持つ看護師の増加を図る目的で「院内認定看護師育成コース」講義(医師/薬剤師/看護師/栄養士/リハビリ士/ソーシャルワーカーによる)を2024年8月から開始している。5名の院内認定看護師が誕生する予定である。

第1回コースの講義は2020年10月に開始し、コロナ感染症による中断をはさんで2021年3月に終了し、研修終了式を2021年7月に行ない、3名の院内認定看護師が誕生した。

第2回コースの講義は2021年12月に開始し、コロナ感染症による中断をはさみ2022年3月から再開、2022年7月に終了し、研修終了式を2022年11月に行ない、3名の院内認定看護師が誕生した。

第3回コースの講義は2023年8月に開始し2024年2月に終了し、研修終了式を2024年3月に行ない、5名の院内認定看護師が誕生した。

- 2) アンスラサイクリン系薬剤の心毒性への対応。

アンスラサイクリン系薬剤による心筋毒性(心不全)予防として、各症例に投与したアンスラサイクリン系薬剤の総量(累積量)を電子カルテ上に記載し警告するテンプレート(『薬剤部』に分類)を新設し、化学療法センターがテンプレート記載し、限界量を越えた症例に警告を発することを開始した。

- 3) irAE 治療薬の適応外使用を倫理委員会に申請し承認を得た。

免疫チェックポイント阻害薬を投与する患者の増加にともない、その有害事象である irAE 発生の増加、irAE を治療すべき患者の増加が予想される。irAE のなかでも間質性肺炎、心筋炎

は死亡に至る可能性のある irAE であり、ステロイドに反応しない症例では保険適応外薬剤の投与が必要となる。がん化学療法委員会は ASCO、ESMO のガイドラインに準拠して、保険適応外薬剤としてミコフェノール酸モフェチル(MMF)とインフリキシマブを投与することを想定し、この 2 剤を irAE 間質性肺炎・心筋炎でステロイドに反応しない症例に保険外使用することを、当院倫理委員会に申請し、承認を得た。

4) 抗がん剤血管外漏出時対応フローチャートの改訂(2024 年 11 月)

2013 年 6 月作成の抗がん剤血管外漏出時対応フローチャートに、アンストラサイクリン系薬剤漏出時のサビーン投与を追加し、かつ、よりわかりやすいように改変した。

5) 医療従事者を対象とした継続的なコンサルテーションシステムの構築に関する実証的研究 CONNECT-Oncology 治験(国立がん研究センター主管)への参加

近年のがん化学療法の進歩により、以前は対象ではなかった(緩和ケア対象であった)症例にも化学療法を行なうようになり、がん化学療法は複雑化高度化して来ている。

この状況下では当院医師ががん化学療法レジメンの選択に迷う状況が発生しつつあるため、CONNECT-Oncology に参加し、国立がん研究センターに症例コンサルテーションができることは、当院医師にとってのメリットと考え、治験への参加を、国立がん研究センターと当院の倫理委員会に申請し、承認を得た。

6) がん治療関連心筋障害(CTRCD)早期発見に向けた対応フローの変更

循環器内科・中岡洋子医師に指導頂き、委員会として電子カルテ上に、CTRCD 早期発見に向けた対応フローチャートを《化療－資料》として掲載した(2023 年)が、保険診療請求審査において指摘があり、これらを改変した。

IV. レジメン検討・登録

当院では、外来化学療法加算の施設基準を満たすがん化学療法委員会を毎月開催し、新しく申請されたレジメンの審査、使用中のレジメンの改定を行っている。

新規登録レジメンは以下の通りである。

- ① マブキャンパス単独療法 (慢性リンパ性白血病) : 他に代替え療法の無い慢性リンパ性白血病亜型に対するレジメンとして
- ② Dose dense AC 療法 (乳癌) : 乳癌に対する周術期化学療法レジメンとして
- ③ キイトルーダ単独療法 (悪性リンパ腫) : 再発または難治性の原発性縦隔大細胞型 B 細胞リンパ腫に対する化学療法レジメンとして
- ④ フェスゴ+タキソテール併用療法 (乳癌) : HER2 陽性乳癌に対する周術期化学療法レジメンとして
- ⑤ フェスゴ単独療法 (乳癌) : HER2 陽性乳癌に対する術後化学療法レジメンとして
- ⑥ エブキンリ単独療法 (悪性リンパ腫) : 再発難治性大細胞型 B 細胞性リンパ腫に対するレジメンとして
- ⑦ オプジーボ+パクリタキセル+カルボプラチン併用療法 (非小細胞肺癌) : 非小細胞肺癌に対する術前化学療法レジメンとして
- ⑧ オプジーボ+アリムタ+カルボプラチン併用療法 (非小細胞肺癌) : 非小細胞肺癌に対する術前化学療法レジメンとして
- ⑨ オプジーボ+アリムタ+シスプラチン併用療法 (非小細胞肺癌) : 非小細胞肺癌に対する術前化学療法レジメンとして
- ⑩ オプジーボ+ゲムシタビン+シスプラチン併用療法 (非小細胞肺癌) : 非小細胞肺癌のなかの扁平上皮癌に対する術前化学療法レジメンとして
- ⑪ オプジーボ+ゲムシタビン+カルボプラチン併用療法 (非小細胞肺癌) : 非小細胞肺癌のなかの扁平上皮癌に対する術前化学療法レジメンとして
- ⑫ アブラキサン単独療法 weekly (乳癌) : 乳癌に対する化学療法レジメンとして
- ⑬ ゲムシタビン単独療法 (乳癌) : アンストラサイクリン系及びタキサン系薬剤に耐性の進行再発乳癌に対する化学療法レジメンとして
- ⑭ ビキセオス単独療法 (急性骨髄性白血病) 【寛解導入】 : 急性骨髄性白血病の寛解導入レジメン

- ンとして
- ⑮ ビキセオス単独療法（急性骨髄性白血病）【地固め】：急性骨髄性白血病の地固めレジメンとして
 - ⑯ エルレフィオ単独療法（多発性骨髄腫）：再発または難治性の多発性骨髄腫に対するレジメンとして
 - ⑰ ニュベクオ+タキソテル併用療法（前立腺癌）：転移性去勢感受性前立腺癌に対するレジメンとして
 - ⑱ ベスポンサ単独療法（急性リンパ性白血病）：再発難治性の CD22 陽性急性リンパ性白血病に対するレジメンとして
 - ⑲ ビーリンサイト単独療法（急性リンパ性白血病）：再発難治性の B 細胞性急性リンパ性白血病に対するレジメンとして
 - ⑳ エンハーツ単独療法（胃癌）：HER2 陽性の切除不能進行・再発胃癌に対するレジメンとして
 - ㉑ ビロイ+mFOLFOX6 併用療法（胃癌）：CLDN18.2 陽性の治癒切除不能な進行・再発胃癌に対するレジメンとして
 - ㉒ ビロイ+XEKOX 併用療法（胃癌）：CLDN18.2 陽性の治癒切除不能な進行・再発胃癌に対するレジメンとして
 - ㉓ キイトルーダ単独療法（腎細胞癌）【術後補助】：腎細胞癌に対する術後補助療法レジメンとして
 - ㉔ キイトルーダ+ゲムシタビン+シスプラチン併用療法（胆道癌）：化学療法歴のない治癒切除不能な胆道癌に対するレジメンとして
 - ㉕ キイトルーダ+ゲムシタビン併用維持療法（胆道癌）：化学療法歴のない治癒切除不能な胆道癌に対する維持療法レジメンとして
 - ㉖ キイトルーダ+パドセブ併用維持療法（尿路上皮癌）：未治療の局所進行性または転移性尿路上皮癌に対するレジメンとして
 - ㉗ ハーセプチン+ハラヴェン併用療法（乳癌）：進行再発 HER2 陽性乳癌に対する 3rd line 以降のレジメンとして
 - ㉘ ハーセプチン+TC 併用療法（乳癌）：アンストラサイクリン系薬剤を省略したい HER2 陽性乳癌に対する術後補助療法レジメンとして
 - ㉙ ポートラーザ+ゲムシタビン+カルボプラチン併用療法（非小細胞肺癌）：非小細胞肺癌のなかの扁平上皮癌に対する 2nd line 以降の化学療法レジメンとして
 - ㉚ Isa+Kd 療法（多発性骨髄腫）：再発または難治性の多発性骨髄腫に対するレジメンとして
 - ㉛ トロデルビ単独療法（乳癌）：進行再発トリプルネガティブ乳癌に対する化学療法レジメンとして
 - ㉜ エトポシド+デカドロン併用療法（血球貪食性組織球症）：血球貪食性組織球症（HLM）に対するレジメンとして